

令和5年度

教科別学習シラバス

(学習の手引き)

1年生



府中市立府中第八中学校

学習シラバスの活用方法

1年生の皆さんは、中学校に入学したばかりで、中学校の学習に対する期待や不安がたくさんあることでしょう。

小学校と中学校の大きな違いは、まず、すべての教科で教科担任制になることです。教科担任制というのは、教科ごとに先生が替わることです。基本的には学年の先生に教わることが多いのですが、教科によっては、他学年の先生に教わることもあります。

中学校では、教科ごとに先生が替わるように、授業の内容や時間数、進め方等についても、教科によって異なります。

この学習シラバスを活用して、中学校での学習の内容や方法、進め方や家庭学習の取り組み方についてしっかりと理解し、学習に意欲的に取り組みましょう。

中学校では、定期的に決められた時期に全学年が同日にテストを行います。それが、中間・期末考査です。テストは皆さんが授業で学習した内容をどの程度理解できているのかを皆さん自身が知るために行われます。不安を感じる人もいると思いますが、この学習シラバスに書かれている内容をしっかりと理解して取り組みれば大丈夫です。

分からない時は、先生に質問してください。先生はきちんと教えてくれます。分からないことを分からないままにしておくと、2年生、3年生になった時に困ります。日々の授業を真剣に受け、しっかりと学習に取り組みましょう。

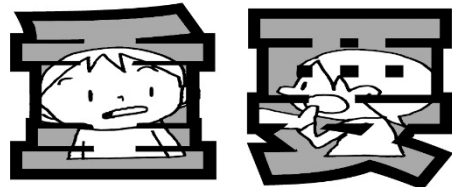
1年生のうちに家庭学習の習慣を付けることができるかできないかは、中学校での学習を大きく左右します。毎日、机に向かい、宿題は必ずその日のうちにやりましょう。最低でも1時間はしっかりと学習しましょう。

試験前や試験後、学期の始まりや終わりに、この学習シラバスを読み返し、自己の学習に対する取り組み状況や学習態度などについて確認しましょう。

そして、「新たな知識を得る楽しさ」や「分かることの喜び」を実感してほしいと思います。

シラバスには次の内容が示されています。

1. 学習の進め方
2. 学習する上での注意事項
3. 家庭学習の進め方
4. 定期考査前の学習の仕方
5. 1年生での学習内容
6. 学習評価



学習シラバス（学習の手引き）を活用しよう

府中第八中学校では、各学年のシラバスを作成しています。この中には各教科の学習に関するさまざまな情報が載っています。しっかり読み込むと自己評価もできるようになっています。

◆学習する内容がつかめます

予習ができます

学習内容	
月	
4月	・世界はうつくしいと ・握手
5月	【学力重点期間】 ・学びて時に之を習ふ ・文章の種類を選んで書く・熟語の読み方
6月	・作られた「物語」を超えて・実用的な文章を読もう ・説得力のある構成を考えよう ・文法（助詞）
7月	【1学期期末考査】 ・俳句の可能性、俳句を味わう ・和語、漢語、外来語 ・読書を楽しむ
8月	【基礎学力テスト】
9月	・挨拶 ・故郷 ・文法（助動詞） ・慣用句、ことわざ、故事成語・漢字の造語力 【2学期中間考査】

シラバスには、「何月くらいにはこの内容を学習する予定です」ということが紹介されています。今やっている授業の内容の、次にやる事が分かるので、予習をすることが可能です。

教科によっては、教科書を補足するための教材を使って授業をしたり、教科書に記載されている順番で授業を進めるのではない場合もあります。そういった時にもシラバスを読めば分かるので、予習をして授業に臨むことが可能です。

◆評価方法・内容が分かります

準備や対処ができます

8 評価について			
内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解している。【漢字、文法、情報の扱い方、我が国の言語文化に関する事項】（	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊に感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにする。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを確かなものにしなから、言葉がもつ価値に気付こうとしているとともに、進んで読書をし、言葉を適切に使おうとしている。
評価材料	●定期テストの結果 ●課題の取り組み、作品の内容 ●発表や話し合いの様子 など	●授業の様子 ●定期テストの結果 ●課題の取り組み、作品の内容 ●発表や話し合いの様子	●授業の様子 ●課題の取り組みや提出状況など、作品の内容 ●発表や話し合いの様子

シラバスには「この内容を評価に用います」「学習内容が理解できたかどうか、この方法で評価します」ということが示されています。「提出物」「授業中の発言」「忘れ物をしない」等、具体的に書いてあるので、家庭に帰って提出物を仕上げたり、持ち物の準備をしたりするなど、準備や対処ができます。

◆学習習慣を身に付けましょう

いつ、どこで学習するかを決めましょう。

時折、SNS等の返信が気になって勉強に集中できないなどということも聞きます。勉強するときは返信しない。9時以降は返信しないなど友達に宣言しましょう。また、テレビやゲーム、動画鑑賞などの誘惑を断ち切ることが大切です。これができるれば「根気・やる気・集中力」などを養うことができます。粘り強く学習に向かう姿勢を貫けるといいですね。

1 使用する教材等

教科書	光村図書 国語1
副教材	「積み上げ」「漢字スキル」「読解スキル」「役立つ文法」
その他	「新・国語の便覧」

2 学習(授業)の進め方

- (1) 文章をしっかりと考えながら読む習慣を身に付けよう。
- (2) 音声表現を工夫して朗読出来るようにしよう。
- (3) 授業では辞書を用意して、積極的に活用する。
- (4) 先生の発問に対しては、その都度考えよう。
- (5) 積極的に発言するようにしよう。
- (6) 人の発言をしっかりと聞き、自分の意見をもつようにしよう。
- (7) 課題やワークシートには、集中してしっかりと取り組もう。
- (8) 作文や作品、発表は、目的や事前説明をよく理解し、工夫を凝らして仕上げよう。

3 宿題(課題)について

課題は真剣に取り組み、提出期限に間に合うようにしよう。

4 学習(授業)をする上で注意すること

- (1) 教科書・便覧・問題集など必要なものはその都度連絡を聞き、忘れないようにしよう。
- (2) 字は丁寧にきちんと書こう。
- (3) 提出物は期限までにきちんと出そう。

5 家庭学習の進め方

- (1) 言葉の意味や難しい漢字は、辞書で調べる習慣を身に付けよう。
- (2) 文章教材は予習が大事。
 - 基礎：授業の前によくくり返し文章を声を出して読み、しっかりと読めるようにしよう。
 - 応用：内容について考え、感想や意見をもとう。
- (3) 文法などは復習が大事。問題を解き直し、しっかりと整理しよう。
- (4) 漢字はくり返し書いて覚えよう。

6 定期考査前の学習の仕方

- (1) 教科書は読んで、授業を思い出す。音読して読みの確認をする。
- (2) ワークシートなどの問題形式のプリントは、自力で解答し、答え合わせをして、不正解だったものは、なぜそうなったのか、なぜ正解がそれなのか、復習する。
- (3) 漢字の読みや書き取りができるか確認する。
- (4) 文法は基本を確認し、くり返し問題を解こう。

7 学習内容

月		月	
4月	朝のリレー 野原はうたう 「聞く」情報を的確に聞き取る 声を届ける/書き留める/言葉を調べる シンシユン	10月	「言葉」をもつ鳥、シジウカラ 思考のレッスン2原因と結果 根拠を示して説明しよう 話題や展開を捉えて話し合おう
5月	ダイコンは大きな根？ ちょっと立ち止まって 情報を集めよう/読み取ろう/引用しよう	11月	大阿蘇 季節のしおり秋 いろは歌
6月	情報の比較・分類/情報を整理して書こう 話の構成を工夫しよう 詩の世界	12月	書写 古典の世界 蓬莱の玉の枝
7月	比喻で広がる言葉の世界 言葉を集めよう 文法	1月	今に生きる言葉 「不憫」の価値を見つめなおす 助言を自分の文章に生かそう
8月	読書を楽しむ 本の中の中学生	2月	考える人になろう 文法 少年の日の思い出
9月	大人になれなかった弟たちに・・・ 星の花が降るころに 聞き上手になろう/項目を立てて書こう 文法	3月	随筆二編 構成や描写を工夫して書こう 一年間の学びを振り返ろう さくらのはなびら

★ 授業は1週間に 4 時間 1年間で 140 時間を予定しています。

8 評価について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解している。【漢字、文法、情報の扱い方、我が国の言語文化に関する事項】	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊に感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにする。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを確かなものにしたりしながら、言葉がもつ価値に気付こうとしているとともに、進んで読書をし、言葉を適切に使おうとしている。
評価材料	● 定期テストの結果 ● 課題の取り組み、作品の内容 ● 発表や話し合いの様子 など	● 授業の様子 ● 定期テストの結果 ● 課題の取り組み、作品の内容 ● 発表や話し合いの様子 など	● 授業の様子 ● 課題の取り組みや提出状況など、作品の内容 ● 発表や話し合いの様子 など
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元ごとの観点別学習状況を総括し、学期末の評価を決定します。 ・ 学習の実現状況として達成度を数値化したものは以下の通りです。 A (十分満足できる) : 80%以上 B (おおむね満足できる) : 50%以上80%未満 C (努力を有する) 50%未満		
評定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点別評価を総括し、評定とします。 ・ 各観点全てAならば評定は4以上。各観点全てBならば評定は3になり、各観点全てCならば評定は2以下となります 達成度の範囲が90%以上で5 (特に程度が高い) 80%以上、90%未満で4 (十分満足できる) 50%以上80%未満で3 (おおむね満足できる)、20%以上50%未満で2 (努力を要する)、20%未満で1 (一層努力を有する)		

9 その他

1 使用する教材等

教科書	社会科「中学生の地理」(帝国書院)・新しい社会「歴史」(東京書籍)
副教材	・アクティブ地理総合(浜島書店)・地理の完全学習1(正進社)・学び考える歴史(浜島書店)・歴史の完全学習1(正進社)
その他	・ファイルB5 ・自主学習ノート

2 学習(授業)の進め方

- (1) 授業を創り上げる
社会科の授業では、教科書の解説のような授業はしません。単元とよばれる学習範囲の中で一人一人が課題を追究していき、考えが深まっていくような授業形態をとっています。
「覚える」というのではなく、「考える」社会科だということを意識しましょう。
- (2) 世界に、日本に、地域に興味をもつ
1年生ではSDGsの課題を中心に学習します。一人一人がしっかりと未来を考えられるようにニュースなどにふれるようにしましょう。

3 宿題(課題)について

復習課題や新聞を使った課題が出ます。ワークや自主学習ノートも少しずつ進めましょう。

4 学習(授業)をする上で注意すること

- (1) 絶えず疑問をもつ
常に「なぜだろう」「本当にそうなのだろうか」という意識をもつことは非常に大切なことです。社会は常に動き、そして絶えず変化しています。ニュースや新聞を読み、調べることで様々な社会の出来事に関心を抱き、問題意識や課題意識をもつことが重要になってきます。
家庭学習などで興味をもったことについて調べてみるのもいいでしょう。授業では作業や話し合い活動を重視しています。これらを通じて理解を深めましょう。
- (2) ワークシート、プリントを活用しよう。
ワークシートやノートは特に指示がない限り必ず提出してください。ワークシートやテストの成績によって評価が決まります。また、返却されたら必ずファイルに貼ったりファイリングしてください。また、単元の最後にカルテやレポートを作成します。
- (3) 資料は数字を必ず見ること！
地図帳や資料集の巻末にある資料を必ず見るようにしましょう。インターネットから情報を得る時もサイトの情報をそのまま載せるのではなく、確実な情報(数字や書籍などの一次資料)から得るようにしましょう。
- (4) 地図帳を眺めよう！
地図帳を眺めながら旅行に行った気分を味わおう。

5 家庭学習の進め方

- 家に帰ったら、5分間でも、10分間でも授業でやった内容を思い出してください。思い出すことができなかつたらワークシートや教科書・資料集を見直し、ラインマーカーなどで重要な語句をチェックしておきましょう。学習は①理解する、②理解を深める、③理解をたしかめる、④理解を定着させる、の流れです。家庭学習の進め方は以下の通りです。
- (1) 授業の前に教科書に目を通しておきましょう。理解の深さ、定着が変わってきます。
- (2) 復習には、プリント・ノート整理をしましょう。また、「自主学習ノート」や「ワーク(地理・歴史)」を解くなど、自分の理解をたしかめることも大切です。
- (3) 授業の学習だけでなく、計画的に地理・歴史の総復習をすすめていき、受検に備えるようにしましょう。

6 定期考査前の学習の仕方

- (1) テスト前だけの学習ではなく、日頃の小さな努力の積み重ねが大切です！
- (2) 授業は教科書に沿って学習を進めています。ノートと教科書をよく見直しましょう。

7 学習内容

月		月	
4月	地理的分野 世界の姿 日本の姿	10月	地理的分野 世界の諸地域（アフリカ州・北アメリカ州） 世界の諸地域（南アメリカ州）
5月	【学力重点期間】 地理的分野 世界のさまざまな地域 人々の生活と環境	11月	地理的分野 世界の諸地域（オセアニア州） 【2学期期末考査】
6月	歴史的分野 歴史をとらえる見方・考え方 古代までの日本 【1学期期末考査】	12月	地理的分野 身近な地域の調査
7月	歴史的分野 古代までの日々（飛鳥～平安）	1月	歴史的分野 中世の日本（平安末期から鎌倉）
8月	地理的分野 世界の諸地域（アジア州）	2月	歴史的分野 中世の日本（室町） 【学年末考査】
9月	地理的分野 世界の諸地域（アジア州・ヨーロッパ州） 【2学期中間考査】	3月	歴史的分野 近世の日本（ヨーロッパとの出会い・安土桃山）

★ 授業は1週間に 3 時間 1年間で 105 時間を予定しています。

8 評価について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。
評価材料	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 学力重点期間テスト 小テスト 確認テスト ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 ワークシート レポート等 授業中の発言 社会科班での取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 ワークシート 授業中の発言 社会科班での取り組み 自主学習ノート・新聞スクラップ <p>※粘り強く、試行錯誤しながら課題解決に取り組む姿を評価します</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとの観点別学習状況を総括し、学期末の評価を決定します。 学習の実現状況として達成度を数値化したものは以下の通りです。 <p>A（十分満足できる）：80%以上 B（おおむね満足できる）：50%以上80%未満 C（努力を有する）50%未満</p>		
評定	<ul style="list-style-type: none"> 観点別評価を総括し、評定とします。 各観点全てがAならば評定は4以上。各観点全てがBならば評定は3になり、各観点全てがCならば評定は2以下となります <p>達成度の範囲が90%以上で5（特に程度が高い）80%以上、90%未満で4（十分満足できる）50%以上80%未満で3（おおむね満足できる）、20%以上50%未満で2（努力を要する）、20%未満で1（一層努力を有する）</p>		

9 その他

<地理>各国のSDGsの取り組みを基に日本の諸地域について学習します。
 <歴史>日本の歴史の大きな流れと、身近な地域の変化とを結びつけられるようにしましょう。
 単元のまとめりにレポート課題が設定されています。
 <新聞>週末の課題で新聞スクラップに取り組みます。

1 使用する教材等

教科書	数学の世界 1年 (大日本図書)
副教材	よくわかる数学の学習1 (明治図書)
その他	サマーワーク 1年 (学宝社)

2 学習(授業)の進め方

分からないことが分かるようになる、できないことができるようになることが勉強です。1時間の授業の中で、何を理解して、何ができればよいのか、授業の中で身に付けたい力を明確にしていきます。

(1) 説明…1日1単元(教科書2ページ程度)の説明を聞きます。

(2) 問題演習…教科書の問を解いたり、プリントを活用したりして、多くの問題に取り組みます。

(3) 宿題…ワークやプリントなどを授業の進行に合わせて解いていきます。

3 宿題(課題)について

毎授業ワーク2ページ程度を基本とします。授業の進み具合によってプリント等になる場合もあります。

4 学習(授業)をする上で注意すること

1年生では、自分の学習の基礎をつくることを大切にしてください。そして、ことばの意味や数式の意味などの「意味」を大切に学習を進めていきます。「意味」を理解して、自力で教科書やワークを進められるような力をつけていきましょう！！

(1) 「気付く力」を身に付けましょう！
すでに学んだことを基にして、どんなことが分かるかな、どうすればいいかな、どうなるかなと考えながら、学習に取り組みましょう。

(2) 「表現する力」を身に付けましょう！
自分の考えを他の人に分かりやすく伝えようとする事で、すじ道を立てて考える力が身に付いていきます。

(3) 「記録する力」を身に付けましょう！
黒板を写すだけでなく、大切だと思ったこと、疑問に感じたこと、自分で考えたことなどもノートやプリントに書き加えましょう。学んだことを言葉で表現し、学びの積み重ねをしましょう。自分で学習内容を把握し、調整することが今後大切になってきます。

(4) 「自力で解決する力」を身に付けましょう。
毎回の授業や宿題等で、自分で考え、問題を解決するように心がけましょう。定期考査や小テスト等は日々の努力の積み重ねを発揮する場にしていきましょう。

5 家庭学習の進め方

(1) ワーク等の宿題には必ず取り組むこと。分からない問題や間違えた問題には印を付けるなどして自分の課題を見直せるようにしましょう。また、丸つけだけでなく、答えまでの「過程」を書いたり、説明したりできるよう取り組みましょう。

(2) 基本的な内容を定着させるためには、ワークの基本問題を自分の力で何も見ないでできるようになるまで繰り返し学習する。発展的な内容まで進めていく場合は、授業の復習をし、ワークの標準・発展問題が確実にできるよう繰り返し学習すると成果が上がります。

6 定期考査前の学習の仕方

(1) まずは、教科書、授業ノートやプリントを読んで、基本問題を徹底的にやりましょう。

(2) 次は、問題集の標準・発展問題をできるだけやり、1題ずつできない問題をできるようにしましょう。

(3) 余裕があれば、さらにいろいろな問題を解くことにチャレンジしてみましょう。

できなかった問題は答えを見て終わりにせず、自分でできるようになるまで何度も取り組みましょう。

7 学習内容

月		月	
4月	・1章 数の世界のひろがり	10月	・4章 量の変化と比例, 反比例
5月	【学力重点期間】 ・1章 数の世界のひろがり	11月	【2学期期末考査】 ・4章 量の変化と比例, 反比例 ・5章 平面の図形
6月	【1学期期末考査】 ・2章 文字と式	12月	・5章 平面の図形
7月	・2章 文字と式	1月	・6章 空間の図形
8月	【基礎学力テスト】 ・3章 1次方程式	2月	・6章 空間の図形 【学年末考査】
9月	・3章 1次方程式 【2学期中間考査】	3月	・7章 データの分析

★ 授業は1週間に 4 時間 1年間で 140 時間を予定しています。

8 評価について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容	○基礎的な概念や原理・法則などを理解しているか。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	○数の範囲に着目し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力などが身に付いている。	○数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度、多様な考えを認め、よりよく問題を解決しようとする態度が身に付いている。
評価材料	・定期考査 ・休み明けテスト ・小テスト 等	・定期考査 ・休み明けテスト ・小テスト 等	・提出物 ・定期考査 ・小テスト 等
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元ごとの観点別学習状況を総括し、学期末の評価を決定します。 ・ 学習の実現状況として数値化したものは以下の通りです。 A (十分満足できる) : 80%以上 B (おおむね満足できる) : 50%以上80%未満 C (努力を有する) 20%未満		
評定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点別評価を総括し、評定とします。 ・ 各観点が全てAならば評定は4以上。各観点が全てBならば評定は3になり、各観点が全てCならば評定は2以下となります 各評定の範囲が90%以上で5 (特に程度が高い)、80%以上90%未満で4 (十分満足できる) 50%以上80%未満で3 (おおむね満足できる)、20%以上50%未満で2 (努力を要する)、20%未満で1 (一層努力を有する)		

9 その他

- (1) 定期考査や小テストの再テストや補習を行っていく予定です。
 (2) わからないところはそのままにせず、授業中や授業後、放課後に質問をしましょう。

1 使用する教材等

教科書	理科の世界1 (大日本図書)
副教材	理科便覧 (浜島書店)
その他	理科ノート1年 (新学社)

2 学習(授業)の進め方

<p>理科は、「何だこれ。これどうなっているんだ。何でこんなことになるんだ。」という疑問を明らかにしていくことが大切です。観察・実験を通してその疑問を明らかにしていきましょう。</p> <p>(1) 復習 : 前回の学習を復習し、何の勉強をしているか確認する。</p> <p>(2) 目的 : 今日の学習の目的は何か確認する。(疑問提起)</p> <p>(3) 観察・実験 : 観察・実験を行いデータを得る。</p> <p>(4) 考察・まとめ : データをもとに考察し疑問を明らかにする。また、今日の学習のまとめを行う。</p> <p>(5) 問題 : 問題を解いて学習の理解・定着を確認する。</p>
--

3 宿題(課題)について

<ul style="list-style-type: none"> 宿題や課題、レポートなどの提出物は、必要に応じて出します。提出期限を守りましょう。

4 学習(授業)をする上で注意すること

<ul style="list-style-type: none"> 授業中先生の話をしっかり聞き、その話の内容について、自ら考えられるようになる。 (話を聞いて分かっただけでなく、自分の頭で考え理解することです。) 「？」という疑問を持つことが大切です。その疑問を明らかにするために、観察・実験に自ら取り組み、正確なデータを得るようにしましょう。正確なデータは、考察を行いやすくし、疑問を明らかにする近道だからです。 (1) 先生の話をしっかり聞く。 授業を理解するためには、しっかりと話を聞くことです。話を聞かないと、自分自身が授業に参加できなくなり、授業内容が分からなくなります。また、観察・実験の方法を間違え、事故にもつながります。 (2) 観察・実験に自ら取り組みよう。 観察・実験の技量を高めることができ、その結果、正確なデータを得やすくなります。正確なデータは考察を行いやすくし、疑問を解く近道につながります。 (3) ノートやプリントを正確に記入して、プリントはファイルにとじておきましょう。 授業は、ノートやプリントで進めます。しっかりと記入されていないと、家での復習ができません。(定期的にノートやプリント点検を行います。) (4) 話し合いに積極的に参加しましょう。 話し合いに参加するためには、まず、自分の考えをまとめなければいけません。考えをまとめることは、より学習の理解を深めることになります。また、他の人に意見を聞くことにより、自分の学習に対する理解度を高めることもできます。 (5) 分からないところは、こまめに質問しよう！ 学習の遅れにつながります。

5 家庭学習の進め方

<ul style="list-style-type: none"> 「復習」は、必ずやりましょう。理解できていないところが確認でき、翌日、質問をすることができるからです。また、学習の定着も図ることができます。 問題集も、計画的に取り組みましょう。
--

6 定期考査前の学習の仕方

<p>(1) 教科書を読んで、何の勉強したのかを確認する。</p> <p>(2) 授業ノートやプリントを見直して理解を深める。</p> <p>(3) 「授業プリントの問題」、「配布プリントの問題」を解く。間違ったところをやり直す。 自分で模範解答や教科書、ノート、プリントを見ても分からないところがあれば質問する。 ★自分で一度考えることが学習の定着につながります。</p>

7 学習内容

月	岸 (週2時間)	岸、鈴木、有村 (週1時間)	月	岸 (週2時間)	岸、鈴木、有村 (週1時間)
4月	・身近な生物の観察	・火山	10月	・物質の状態変化	・地層
5月	・植物のなかま	・火山	11月	・物質の状態変化	・地層
【2学期期末考査】					
6月	・動物のなかま	・地震	12月	・水溶液	・地層
【1学期期末考査】					
7月	・いろいろな物質	・地震	1月	・水溶液	・大地の変動
8月	・いろいろな物質 ・気体の発生と性質	・地震	2月	・力のはたらき	・光の性質
【学年末考査】					
9月	・気体の発生と性質	・地震 ・地層	3月	・力のはたらき	・音の性質
【2学期中間考査】					

★ 授業は1週間に 3 時間 1年間で 105 時間を予定しています。

8 評価について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力が身に付いている。	自然の事物・現象に進んでかわり、科学的に探究しようとする態度が身に付いている。
評価材料	①定期考査(学力重点期間のテストを含む) ②実験、観察時の態度や取り組み ③授業プリント内の実験データの記入、まとめ方 ④授業中の発問への答え ⑤パフォーマンステスト ⑥レポート など	①定期考査(学力重点期間中のテストを含む) ②授業中の発問への答え ③授業プリント内の実験データの記入、まとめ方、考え方、話し合い ④レポート など	①授業への関心や意欲、授業中の態度や取り組み ②授業ノートやプリントの全体整理、記入、まとめ方 など
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元ごとの観点別学習状況を総括し、学期末の評価を決定します。 ・ 学習の実現状況として数値化したものは以下の通りです。 A (十分満足できる) : 80%以上 B (おおむね満足できる) : 50%以上80%未満 C (努力を有する) 50%未満		
評定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点別評価を総括し、評定とします。 ・ 各観点全てがAならば評定は4以上。各観点全てがBならば評定は3になり、各観点全てがCならば評定は2以下となります 各評定の範囲が90%以上で5 (特に程度が高い) 80%以上、90%未満で4 (十分満足できる) 50%以上80%未満で3 (おおむね満足できる)、20%以上50%未満で2 (努力を要する)、20%未満で1 (一層努力を有する)		

9 その他

実験は安全第一です。理科では危険な薬品なども使うので、指示に必ず従いましょう。指示に従わないクラスでは、安全が確保できないので実験が行えません。

1 使用する教材等

教科書	教育芸術社 中学生の音楽1
副教材	ニューコーラスフレンズ（教育芸術社）
その他	

2 学習(授業)の進め方

分からないことが分かるようになる、できないことができるようになることが勉強です。1時間の授業の中で、何を理解して、何ができればよいのか、授業の中で身に付けたい力を明確にしていきます。

3 宿題(課題)について

長期休業中に出ることがあります。

4 学習(授業)をする上で注意すること

1年生で一番大切なことは、土台をしっかりとさせることです。2学期には合唱コンクールがあります。この合唱コンクールに向けて、4月から基礎練習を積み重ね、素晴らしい合唱を作り上げるためにも、次のことをしっかりと行いましょう。

- (1) 先生の話のしっかりと聞きましょう！様々な指示をします。必ず指示に従って行動してください。
- (2)しっかりと音を聞いて歌いましょう。
パート練習の時など、ただやみくもに歌うのではなく、仲間の声をしっかりと聞きながら歌いましょう。
- (3)分らないところは聞きましょう！先生の話が終わってから、質問しましょう。
- (4)自分の考えを伝えましょう！
クラス、学年の合唱が上達するために、改善点など、気付いたことを楽譜に書き込み、発言しましょう。
- (5)繰り返し練習しましょう！

5 家庭学習の進め方

- (1)【予習】 合唱曲集を良く見て書き込みをしましょう。
- (2)【復習】 お風呂で歌ってみましょう。
- (3)【提出物】 毎時間自己診断カードを記入し、提出。楽譜の提出もあります。

6 定期考査前の学習の仕方

- (1) まずは、合唱曲集や教科書に書かれている音符や休符、諸記号を確認し、意味・読み方を覚えましょう。
- (2) 作詞作曲者や歌詞の意味、時代背景などを理解しましょう。
- (3) 授業や鑑賞におけるプリントをよく読み、確認しましょう。

7 学習内容

月	学習内容	月	学習内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・発声方法 ・校歌 ・合唱曲『君をのせて』 	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱コンクール 課題曲、クラス曲 ・合唱曲 鑑賞
	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞『春』 		<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞『魔王』

5月	・合唱コンクール課題曲	11月	・歌唱『赤とんぼ』
6月	・歌唱曲『浜辺の歌』 ・クラス曲決定 ・合唱曲『群青』 【1学期期末考査】	12月	・歌唱『野ばら』 ・合唱曲『あなたへ』
7月	・合唱コンクール課題曲 ・クラス曲 ・全校合唱曲	1月	・合唱曲『あなたへ』 ・鑑賞『魔笛』 ・器楽『和太鼓』
8月	・宿題：鑑賞等	2月	・鑑賞『魔笛』 ・合唱曲『あなたへ』 【学年末考査】
9月	・合唱コンクール課題曲 ・合唱コンクールクラス曲 ・合唱コンクール全校合唱曲	3月	・合唱曲『あなたへ』

★ 授業は1週間に 1.3 時間 1年間で 45 時間を予定しています。

8 評価について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容	曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けている。	音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく。
評価材料	☆定期テスト ☆ワークプリント ☆実技テスト	☆ワークプリント ☆実技テスト ☆定期テスト ☆楽譜書き込み	☆マイマイマイ ☆自己診断カード ☆小テスト ☆レポート
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元ごとの観点別学習状況を総括し、学期末の評価を決定します。 ・ 学習の実現状況として数値化したものは以下の通りです。 A (十分満足できる) : 80%以上 B (おおむね満足できる) : 50%以上80%未満 C (努力を有する) 50%未満		
評定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点別評価を総括し、評定とします。 ・ 各観点全てがAならば評定は4以上。各観点全てがBならば評定は3になり、各観点全てがCならば評定は2以下となります。 各評定の範囲が90%以上で5 (特に程度が高い) 80%以上、90%未満で4 (十分満足できる) 50%以上80%未満で3 (おおむね満足できる)、20%以上50%未満で2 (努力を要する)、20%未満で1 (一層努力を有する)		

9 その他

実技教科は、実技が第一です。音楽活動に積極的に参加し、互いに高め合う授業にしていきたいと思います。また、2学期は合唱コンクールの関係で音楽は定期テストを行いません。実技テスト中心となります。頑張りましょう。

1 使用する教材等

教科書	日本文教出版 美術1 美術との出会い
副教材	美術資料／東京の美術、レタリング辞典
その他	色鉛筆、アクリル絵具

2 学習(授業)の進め方

プリント等で読み合わせしながら、道具の使い方や制作工程(手順)や注意点などを確認して授業を進めていきます。また、作品を鑑賞を鑑賞する授業も行います。1時間の授業の中で、新しい発見や工夫ができるように取り組んでいきましょう。

3 宿題(課題)について

制作を深めるための調べ学習や、また夏季休業中には美術鑑賞の課題が出ます。

4 学習(授業)をする上で注意すること

1年生の授業では、身近にあるものを対象にして描写力の向上を目指します。特に立体感や遠近感が表現できるように学んでいきます。また、アクリル水彩絵の具での技法を習得します。基礎的な知識や技能を身に付けて表現の幅を広げ、自分の感じる世界を色や形に表せるようになりましょう。

(1) 先生の説明を聞いて、作品づくりの目的と方法を理解し、さらに新しい発見や工夫を作品に盛り込みましょう。

(2) 分からない点はそのままにせず先生に質問したり、さらに教科書・資料集やプリントでも確認してください。

(3) 作品とは、その人の分身とも言われます。上手とか下手とかだけでなく、気持ちを込めて丁寧に作り上げることが大切です。

5 家庭学習の進め方

[予習] シラバスが渡されたら内容を確認しましょう。内容がわっているとイメージが湧いて、制作の参考になることがあります。

[復習] 授業でのポイントや専門用語をノートにメモしたり板書も必ず写して、テスト前には復習できるようにしておきましょう。

[提出物] ノートに板書内容・説明プリントおよび定期考査の問題用紙と解答用紙を貼り、提出ができるようにしておいてください。

6 定期考査前の学習の仕方

(1) 教科書・美術資料の指定されたページや配布プリントをよく確認します。手順や注意点、用語を覚えましょう。

(2) 作者名や作品名を覚えながら、作品の特徴や作者の人柄、さらに歴史的な背景などを知ると理解が深まります。

7 学習内容

月	渡邊	月	渡邊
4月	【レタリング】 明朝体を学習する ①「永」②「絵文字」の制作	10月	②デザイン下描き ③文字の形に切り取り
5月	③絵文字アイデア ④下描き	11月	④立体成形（遠近感に合う形に） 【2学期期末考査】
6月	⑤着彩する ・色相環の活用 ・透明描法と不透明描法の併用 【1学期期末考査】	12月	⑤立体の着彩 ・面による色の変化の学習
7月	⑥着彩完成・名札付け	1月	⑥平面の着彩 ・色によるパースの学習
8月	美術鑑賞新聞の作成	2月	⑦着彩完成・名札付け 【学年末考査】
9月	【半立体デザイン】 ゴシック体を学習する。 ①2～3文字（名前）のデザイン制作	3月	生徒作品の鑑賞

★ 授業は1週間に 1.5 時間 45 時間を予定しています。

8 評価について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容	<ul style="list-style-type: none"> 制作の目的を理解している 技法について理解している 技法を制作に活用している 作者作品の予備知識がある 	<ul style="list-style-type: none"> 作品の良さをよく理解している より良い作品制作を求めている 制作に用いる技法が適切である 手順や条件をよく理解している 	<ul style="list-style-type: none"> 進んで制作に取り組んでいる 良い作品を作ろうとしている 集中して丁寧に制作している 自ら創作活動を楽しんでいる
評価材料	<ul style="list-style-type: none"> 作品 プリント 定期考査 授業観察 ノート提出 	<ul style="list-style-type: none"> 作品 プリント 定期考査 授業観察 ノート提出 	<ul style="list-style-type: none"> 作品 プリント 定期考査 授業観察 ノート提出
評価	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとの観点別学習状況を総括し、学期末の評価を決定します。 学習の実現状況として数値化したものは以下の通りです。 <p>A（十分満足できる）：80%以上 B（おおむね満足できる）：50%以上80%未満 C（努力を有する）50%未満</p>		
評定	<ul style="list-style-type: none"> 観点別評価を総括し、評定とします。 各観点が全てAならば評定は4以上。各観点が全てBならば評定は3になり、各観点が全てCならば評定は2以下となります <p>各評定の範囲が90%以上で5（特に程度が高い）80%以上、90%未満で4（十分満足できる） 50%以上80%未満で3（おおむね満足できる）、20%以上50%未満で2（努力を要する）、20%未満で1（一層努力を有する）</p>		

9 その他

1 使用する教材等

教科書	最新中学保健体育（大修館書店）
副教材	ステップアップ（大修館書店）、保体資料ノート（正進社）
その他	

2 学習(授業)の進め方

- (1) 単元により、男女共習または男女別(2クラス合同)で授業を行い、体育分野と保健分野を学習する。授業の場所については、体育係が連絡する。
- (2) 授業には、体育着、運動靴(ランニングシューズなど)、体育館ばき、図解資料「ステップアップ中学体育」(大修館書店)、教科書「中学校保健体育」(大修館書店)、「中学保体資料ノート1年」(正進社)、体育用ファイルなど、連絡されたものを用意する。
- (3) 1時間の授業の流れ
- ① 前の時間の授業が終わったらすぐに更衣する。(体育館棟3階更衣室)
更衣室ではしゃべらずに着替え、荷物を1つのロッカーにまとめ、すぐに授業場所に行く。
 - ② 授業場所では整列の隊形で待つ。全員そろったら、体育係の指示で準備運動を始める。
 - ③ あいさつ、出欠確認、授業の目標・内容の説明を聞き、理解する。(説明を聞くときは、聞き逃さないよう、集中して聞くこと。)
 - ④ 集合や移動は速やかに行い、活動時間を確保できるようにする。(行動の基本は駆け足。)
 - ⑤ 授業の最後にはもう一度整列し、けが人などの確認とその時間の反省、次時の確認を行い、あいさつをしてから終了。
 - ⑥ 活動終了後も迅速に着替えを行い、次の授業の準備をする。(次の授業に遅れない。)
- (4) 授業後は学習カード等で学習内容を振り返り、ポイントを整理し、自分の課題や記録、次回の目標などを記入する。(時々回収し点検します。)

3 宿題(課題)について

必要に応じて連絡します。

4 学習(授業)をする上で注意すること

- 中学校では、小学校で学習してきた内容よりも、より専門的な学習になります。1、2年生では、基礎的な技能や知識を身に付け、3年生へとつなげていきます。より高い技能や知識を身に付けるために大切なことは「授業規律」です。着替え・整列・体操・集合・あいさつといった、毎時間行うこと、「授業規律」を大切に授業を進めていきます。
- (1) 正しい身なりをする。体育着はハーフパンツに入れる。髪が肩にかかる場合はゴムで結ぶ。前髪が目にかからないようにする。爪は定期的に切って短くしておく。
 - (2) 用具を大切に、準備・片付けは協力し、率先して行う。
 - (3) 見学は、生徒手帳にその理由を記入し、保護者の認印を得た上で、授業開始前に担当の先生に報告・提示する。養護の先生の指示があった場合は、その旨を伝える。見学者は、体育着またはジャージに着替え、先生の指示を受ける。(特別な理由がない限り、標準服での見学は認めません。)
 - (4) 体育着など授業に必要なものを忘れてしまった場合は、できるだけ早く先生に申し出て、指示を受ける。勝手に友達に借りてはいけない。

5 家庭学習の進め方

- (1) 特にありませんが、体調を整えていないと、けがにつながることもあるので、食事や睡眠など規則正しい生活を心がけること。特に、朝食を必ずとるようにする。朝食を抜くと貧血や気持ち悪くなることの原因になる。
- (2) 日頃から運動やスポーツ、健康や安全に関心を持ち、体を動かす機会をたくさん作ろう。

6 定期考査前の学習の仕方

- (1) 毎時間、授業の中での先生の話を中心して聞き、学習カードを活用しながら、ポイントをまとめておくことが大切。
- (2) 教科書やステップアップ中学体育、保体資料ノートのテスト範囲となっている内容についてはしっかり理解しておく。
- (3) 授業で使用した学習カードやプリントをファイリングして大切に保管し、内容を見直しておく。

7 学習内容

月		月	
4月	○体づくり（体カテスト） ○保健	10月	○マット運動 ○保健
5月	【学力重点期間】 ○陸上競技（短距離・リレー） ○保健	11月	○球技 ○保健 【2学期期末考査】
6月	○球技 ○保健 【1学期期末考査】	12月	○ダンス ○保健
7月	○水泳 ○保健	1月	○武道・球技 ○保健
8月		2月	○陸上競技（長距離走） ○保健 【学年末考査】
9月	○球技 ○保健 【2学期中間考査】	3月	○球技 ○保健

★ 授業は1週間に 3 時間 1年間で 105 時間を予定しています。

8 評価について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容	○各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けている。	○運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	○生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を身に付けている。
評価材料	○定期考査 ○実技テスト ○保体資料ノート ○学習カード ○授業観察	○定期考査 ○実技テスト ○保体資料ノート ○学習カード ○授業観察	○定期考査 ○実技テスト ○保体資料ノート ○学習カード ○授業観察
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元ごとの観点別学習状況を総括し、学期末の評価を決定します。 ・ 学習の実現状況として達成度を数値化したものは以下の通りです。 A（十分満足できる）：80%以上 B（おおむね満足できる）：50%以上80%未満 C（努力を有する）50%未満		
評定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点別評価を総括し、評定とします。 ・ 各観点全てがAならば評定は4以上。各観点全てがBならば評定は3になり、各観点全てがCならば評定は2以下となります 達成度の範囲が90%以上で5（特に程度が高い）80%以上、90%未満で4（十分満足できる）50%以上80%未満で3（おおむね満足できる）、20%以上50%未満で2（努力を要する）、20%未満で1（一層努力を有する）		

9 その他

1 使用する教材等

教科書	技術・家庭 技術分野（開隆堂）
副教材	ハンドノート技術分野（A材料と加工の技術）
その他	木工作品の製作（小物入れ）

2 学習(授業)の進め方

- (1) 技術・家庭の学習
 - ・ものづくりなどの技術によって、よりよい生活や社会を実践する力を学習します。
- (2) 技術分野の学習について
 - ・「材料と加工」「生物育成」「エネルギー変換」「情報」の4つの技術の内容を学習します。
- (3) 学習の流れについて
 - ・知識や技能を身につける。
 - ・問題から課題を考え、ものを作ることで課題を解決する。
 - ・学習したことを社会や生活に生かす。

3 宿題(課題)について

- ・ワーク（ハンドノート）の課題が毎時間あります。授業開始時に必ず提出しましょう。
- ・調べ学習やレポート課題、発表課題などがあります。指定された日に必ず提出しましょう。

4 学習(授業)をする上で注意すること

- (1) 授業前
 - ① 前日の授業の連絡を各自メモし、当日忘れずに持ってくる。（係の連絡頼りにしない）
 - ② 基本用具（筆記用具・定規・教科書・ワーク・青ファイル）は、毎時間忘れずに持ってくる。
 - ③ チャイム前に着席し、静かに授業準備（配布物や記入）・事前学習・ワークの丸つけなどをする。
- (2) 授業中
 - ① 指定された席に座り、移動せず、集中して授業を受ける。
 - ② 授業で説明されたことや学習内容、必要なことは、積極的にメモ（記録）する。
- (3) 実験・実習中
 - ① 先生からの説明やプリントの指示を理解して、一人一人で行う。（人のマネは学習ではありません）
 - ② 機器や機械を安全に使用し、けがや事故のないようにする。
 - ③ タブレット使用時は、ハ中ルールを守る。（特に個人使用、充電済、ログイン済、他機能は使用しないなど）
 - ④ 指定された期間で、ていねいに、能率よく行い、授業内で完成させる。（補習等は行わない）
 - ⑤ 指定された時間（10分前）で、一斉に片付けをする。（全員で片付けし、作業はしない）
- (4) 授業終わり
 - ① 静かに授業の振り返り用紙を記入し、提出する。（チャイムまでに済ませる。持ち帰らない）
 - ② 次回の授業道具をメモする。
 - ③ あいさつ後は、速やかに退室する。（次のクラスが入れるようにする）
- (5) 欠席
 - ① 欠席した人は、次の登校日にクラスの人から授業連絡を確認しましょう。（プリント類も受け取る）
 - ② 班に欠席者がいる場合は、配られたプリントを教室の机の中に入れてあげましょう。（メモ書きも）
 - ③ 班に欠席者がいる場合は、振り返り用紙に「欠席」と記入する。（後日、本人も確認してください）
 - ③ 欠席して提出物が出せなかったときは、次の登校日に速やかに提出しましょう。
- (6) その他
 - ① 授業中、基本的に教室を出ることはできません。（授業道具忘れがないか、授業前に確認しておきましょう）
 - ② 技術室内は、危険なので走らない、動き回らない、触らないでください。（フェンスより後ろに行かない）
 - ③ 自分の作品、他人の作品を大切に。持ち帰り後も家庭で活用しましょう。
 - ④ 提出物の忘れは、基本的に次の授業で提出してください。（欠席の場合の申し出、学期末は早めます）

5 家庭学習の進め方

- (1) 宿題について
 - ・ワークや課題をただやるだけでなく、理解を深めながら進めましょう。
- (2) 予習について
 - ・前日の授業でやったこと、次の日に何をやるか、プリント類を事前に見返しておきましょう。
- (3) 定期考査に向けて
 - ・直前になって始めず、余裕をもって準備をしておきましょう。

6 定期考査前の学習の仕方

- (1) 直前になって始めるのではなく、余裕をもって準備をしておきましょう。
- (2) ワークやプリントを見返し、語句や数値、機器の使い方などを覚えましょう。
（毎時間の記入、丸つけ、提出をしてテスト直前になって困ることがないようにしましょう）
- (3) 授業全体を振り返り、考え方や工夫のしかたが述べられるようにしましょう。

7 学習内容

月		月	
4月	技術分野のガイダンス 材料と加工に関する技術（１） ・材料と加工法	10月	材料と加工に関する技術（６） ・手順を考えて製作
5月	【学力重点期間】 材料と加工に関する技術（２） ・材料の特徴	11月	材料と加工に関する技術（７） ・手順を考えて製作 【２学期期末考査】
6月	材料と加工に関する技術（３） ・材料に適した加工法 【１学期期末考査】	12月	材料と加工に関する技術（８） ・製作品の評価
7月	材料と加工に関する技術（４） ・丈夫にする方法 ・製作品の構想	1月	情報に関する技術（１） ・コンピュータの仕組みを知る
8月		2月	情報に関する技術（２） ・デジタル化について考える 【学年末考査】
9月	材料と加工に関する技術（５） ・構想をまとめる	3月	情報に関する技術（３） ・デジタル作品を製作

★ 授業は1週間に 1 時間 1年間で 35 時間を予定しています。

8 評価について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容	生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生活や社会の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会のに向けて、課題の解決を主体的に取り組み、振り返って改善したり、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
評価材料	* 作図 * 定期考査 * 作品（木工作品） * 調べ学習	* 設計 * 発表 * 定期考査 * 作品（木工作品）	* 振り返りシート * ワークシート * 学習予定表
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元ごとの観点別学習状況を総括し、学期末の評価を決定します。 ・ 学習の実現状況として達成度を数値化したものは以下の通りです。 A（十分満足できる）：80%以上 B（おおむね満足できる）：50%以上80%未満 C（努力を有する）20%未満		
評定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点別評価を総括し、評定とします。 ・ 各観点全てAならば評定は4以上。各観点全てBならば評定は3になり、各観点全てCならば評定は2以下となります 達成度の範囲が90%以上で5（特に程度が高い）80%以上、90%未満で4（十分満足できる）50%以上80%未満で3（おおむね満足できる）、20%以上50%未満で2（努力を要する）、20%未満で1（一層努力を有する）		

9 その他

「技術」と「家庭」は、「技術・家庭」で1つの教科になります。
 定期考査では、テスト時間30分で「技術・家庭」で実施します。
 定期考査の得点も技術50点・家庭50点・合計100点満点になります。
 通知表は、「技術・家庭」で合せたもので、評価・評定がでます。

1 使用する教材等

教科書	開隆堂
副教材	
その他	学習ファイル（配布します）（のり、はさみ、裁縫道具）

2 学習(授業)の進め方

学びは全て、自分の『生活を豊かにする』ことに繋がります。現在だけでなく、将来のためにも積極的に学びましょう。

- ・座学：授業の「ねらい」について、自らの考えを深め、共有し、正しい知識や技能の定着を目指します。
- ・実技：裁縫や調理などの実習を通して、実生活で生かせる力を身に付けていきます。

3 宿題(課題)について

家庭での実践課題は、自分の力でじっくりと取り組みましょう。
提出物等は必ず期限を守って提出しましょう。

4 学習(授業)をする上で注意すること

- ① 授業開始のチャイムと同時に始業のあいさつができるよう、移動を早くしましょう。
- ② 実習では、説明と作業の素早い切り替えを意識しましょう。
- ③ 実習教室（被服室・調理室）では、勝手に室内のものに触れず、ルールを守りましょう。
- ④ 作業中は安全のため、集中して行い（無言）、自席で作業に取り組みましょう。
- ⑤ 提出物の期限は必ず守りましょう。
- ⑥ 積極的に発言し、互いに高め合える授業をつくりましょう。

5 家庭学習の進め方

学習内容を家庭で実践することが大切です。習ったことが自分の生活でどのように生かせるかを考え、その日から家で実践しましょう。

6 定期考査前の学習の仕方

- ① 教科書の文章をよく読み、内容を整理しよう。
- ② プリントを見て、授業で説明された内容を思い出し、ポイントをまとめよう。
- ③ プリントの空欄のみ暗記するのではなく、内容をしっかりと理解しよう。
- ④ 繰り返し、学習しよう。

7 学習内容

月		月	
4月	・ガイダンス A 家族・家庭生活 1. 自分の成長と家族・家庭生活	10月	4. 日常食の調理 日常食の調理
5月	【学力重点期間】 1. 自分の成長と家族・家庭生活	11月	5. 日常食の調理 【2学期期末考査】
6月	B 食生活 1. 食事の役割と食習慣 【1学期期末考査】	12月	6. 献立づくり
7月	2. 中学生に必要な栄養を満たす食事	1月	7. 持続可能な食生活
8月	【基礎学力テスト】	2月	B 住生活 1. 住まいのはたらきとこちよさ 【学年末考査】
9月	3. さまざまな食品とその選択 【2学期中間考査】	3月	2. 安全な住まいで安心な暮らし

★ 授業は1週間に 1 時間 1年間で 35 時間を予定しています。

8 評価について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容	生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生活や社会の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
評価材料	* 定期考査 * 作品 * 技能テスト	* ワークシート（タブレット回答） * 発表 * 定期考査	* 学習ファイル（振り返りシート） * ワークシート * 班活動
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元ごとの観点別学習状況を総括し、学期末の評価を決定します。 ・ 学習の実現状況として数値化したものは以下の通りです。 A（十分満足できる）：80%以上 B（おおむね満足できる）：50%以上80%未満 C（努力を有する）50%未満		
評定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点別評価を総括し、評定とします。 ・ 各観点全てがAならば評定は4以上。各観点全てがBならば評定は3になり、各観点全てがCならば評定は2以下となります 各評定の範囲が90%以上で5（特に程度が高い）80%以上、90%未満で4（十分満足できる）50%以上80%未満で3（おおむね満足できる）、20%以上50%未満で2（努力を要する）、20%未満で1（一層努力を有する）		

9 その他

- ・ 忘れ物があると、学習内容に支障がでてしまいます。特に実習では、忘れずに道具を準備して下さい。
- ・ 裁縫や調理は基礎、基本の技能から学習します。苦手意識を持たず、意欲的に取り組みましょう。繰り返し学習する事で力が身に付きます。3年間で力の定着を目指しましょう！

1 使用する教材等

教科書	Here We Go! ENGLISH COURSE 1
副教材	ジョイフルワーク、Let's Enjoy "BINGO"
その他	プリントを保管する青色ファイル(今後配布します)

2 学習(授業)の進め方

- 単語ビンゴ
- 英語の歌
- 英語のルール（英文法の学習）
- 教科書の本文の読解
- リスニング・スピーキング活動
- 自己表現活動

3 宿題(課題)について

ビンゴの単語を書いてくる(毎回)、本文写し、新出単語練習など

4 学習(授業)をする上で注意すること

- 語い(単語 連語)、英語のルール(英文法)をしっかりと覚えること。
- 教科書を何度も音読して、いろいろな表現を自分のものにすること。
- 上記のことをするために、授業に全力で取り組むこと。そして、家庭でも課題に取り組んだり復習をすること。
- 英語学習のためのよりどころになるプリントは、指定のファイルにはさみ、いつでも見ることができるようになること。
指定のファイルは3年間使用します。

5 家庭学習の進め方

- 単語練習や基本文の練習をしっかりとすること。
- 教科書本文の音読をしっかりとすること
- ワークシートの課題にしっかりと取り組むこと。

6 定期考査前の学習の仕方

- 普段から音読練習や毎授業の復習を行うこと。授業で配布したプリントやジョイフルワークを活用して、反復練習をすること。
- 英語で表現する問題も出題されます。普段の授業でどれだけ全力で学習しているかが大切です。
- テストでは、単語や文を正確に書くことが必要になるので、たくさん練習して覚えていきましょう。

7 学習内容

月		月	
4月	<ul style="list-style-type: none"> アルファベットの名前と発音 身の回りの英語 小学校時代の復習 	10月	<ul style="list-style-type: none"> Unit 5 This Is Our School (場所や時を質問する、命令する) Daily Life 2 (誰のものか質問する)
5月	【学力重点期間】 <ul style="list-style-type: none"> Unit 1 Here We Go! (簡単な自己紹介・英文の基本) 	11月	<ul style="list-style-type: none"> Unit 6 Cheer Up, Tina (三人称・単数・現在形の一般動詞) 【2学期期末考査】 (身近な人の紹介)
6月	<ul style="list-style-type: none"> Unit 2 Club Activities (相手のことを聞く) 【1学期期末考査】 <ul style="list-style-type: none"> Unit 3 Enjoy the Summer (夏休みの生活、したいこと) 	12月	<ul style="list-style-type: none"> Daily Life 3 (カフェで注文する) Let's Read 1 You Can Do it 2 World Tour 1・2 (世界の中学生・時刻)
7月	<ul style="list-style-type: none"> Daily Life 1 (国際郵便) You can do it 1 (自己紹介) 	1月	<ul style="list-style-type: none"> Unit 7 New Year Holidays in Japan (過去のことを説明する、手紙を書く) Daily Life 4 (Webサイト)
8月	【基礎学力テスト】 <ul style="list-style-type: none"> Unit 4 Our New Friend (自分や相手以外のことを説明する) 	2月	<ul style="list-style-type: none"> Unit 8 Getting Ready for the Party (今この時にしていることを説明する) Daily Life 5 (ラジオの中継を聞く) 【学年末考査】
9月	【2学期中間考査】	3月	<ul style="list-style-type: none"> Let's Read 2 You Can Do it 3

★ 授業は1週間に **4** 時間 1年間で **140** 時間を予定しています。

8 評価について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容	<ul style="list-style-type: none"> 単語・連語・その発音 英語のルール(英文法) 上記を用いて英語で表現する技能を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> 英語の知識を用いて、自分の伝えたいことを相手と言い合うことができる。 英語の知識を用いて、自分の伝えたいことを(スピーチ等で)話すことができる。 英語の知識を用いて、自分の伝えたいことを書いてまとめることができる。 英語の知識を用いて、まとまった内容の要点を捉えたり、必要な情報を得たりすることができる。 英語の知識を用いて、様々な内容の英語で書かれた文章の要点や必要な情報を得ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。 外国語や外国文化に対する理解を深めようとする。
評価材料	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 など 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 スピーチや特定の場面における対話の実技テスト など 	<ul style="list-style-type: none"> 単語テスト 単元振り返りテスト スピーチにおける量 課題への取り組み など
評価	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとの観点別学習状況を総括し、学期末の評価を決定します。 学習の実現状況として達成度を数値化したものは以下の通りです。 A(十分満足できる) : 80%以上 B(おおむね満足できる) : 50%以上80%未満 C(努力を有する) 20%未満		
評定	<ul style="list-style-type: none"> 観点別評価を総括し、評定とします。 各観点全てAならば評定は4以上。各観点全てBならば評定は3になり、各観点全てCならば評定は2以下となります 達成度の範囲が90%以上で5(特に程度が高い) 80%以上、90%未満で4(十分満足できる) 50%以上80%未満で3(おおむね満足できる)、20%以上50%未満で2(努力を要する)、20%未満で1(一層努力を有する)		

9 その他

- 授業に全力で取り組むこと。
- 英語は少人数で授業を行います。ABCDEG組は、2学級を3グループに展開して実施します。F組は1学級を2グループに展開して実施します。

1年 組 番 氏名
